



第5章 計画推進にあたって



- 1 市政の横断的な文化芸術施策の展開
- 2 文化芸術に関わる人材や専門機関との連携
- 3 各種団体との交流による活動の創出
- 4 計画の進捗管理及び評価の手法

第5章 計画推進にあたって

1 市政の横断的な文化芸術施策の展開

本計画を推進するにあたっては、文化芸術そのものの振興に加えて、福祉、教育、まちづくり、国際交流、観光、産業等との連携による分野横断的な施策展開を図る新たな庁内組織体制づくりを進めます。

(1) 多様な主体が文化芸術に関わる横断的な庁内組織体制づくり

本計画では、分野を横断した施策展開を想定しています。施策を推進していくためにも、多様な主体が関わる横断的な組織体制が必要ですが、一朝一夕に構築できるものではありません。

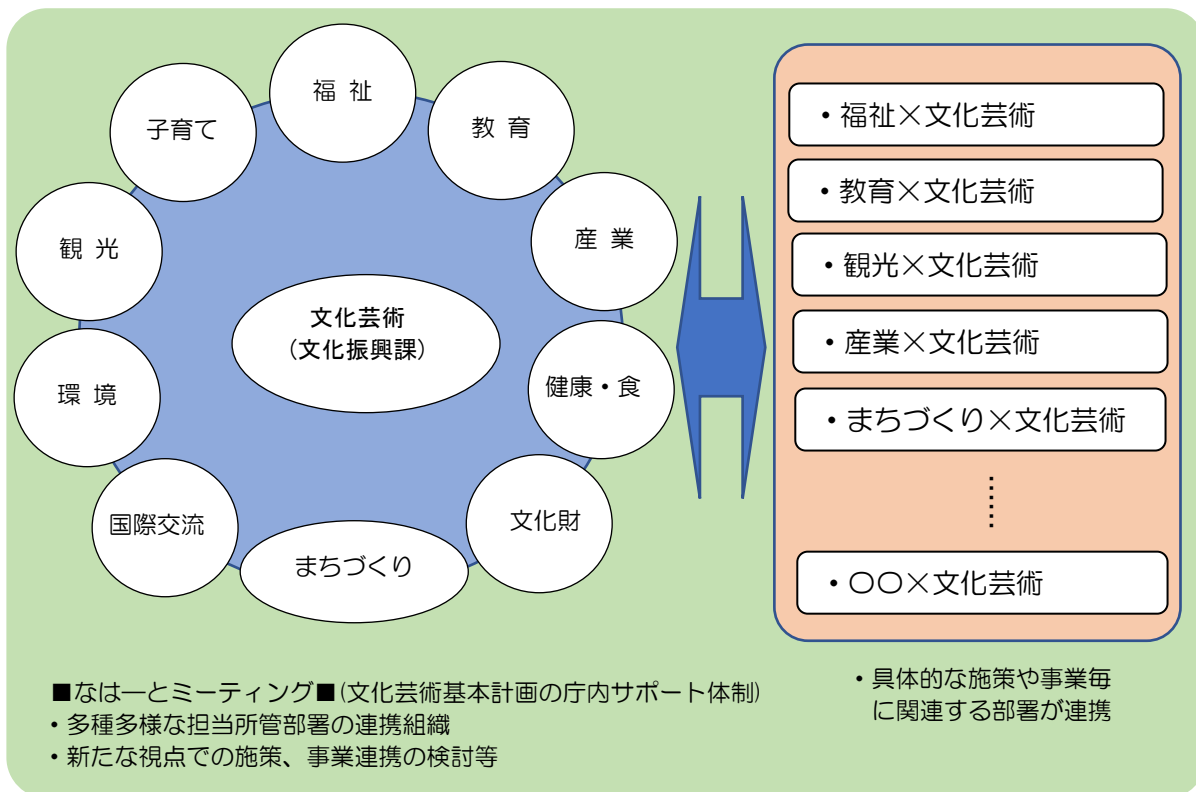
そのため、試行的に実態を伴った組織を目指し、新たな視点で施策や事業連携の検討を担う庁内組織体制づくりを図ります。

◆施策展開にあたっての庁内サポート体制(庁内協働)

文化振興課をコーディネーターとして、未着手の事業や新たな事業展開に向けて、各関連部署や関心のある部署からなる庁内サポート体制：通称「なはーとミーティング(仮)」を構築します。

また、個別の取組(施策・事業)ごとの進捗管理は、各取組の担当部署及び関連部署が緩やかに連携しながら検証し、必要に応じて「なはーとミーティング(仮)」において課題等を共有し、取組の改善に反映します。

事業執行の庁内サポート体制



(2) 「那覇文化芸術劇場なはーと」を中核とした施策展開

「那覇文化芸術劇場なはーと」は、本市の新たな文化芸術施策を実践するための中核施設となることを目指しています。専門性の高い技術スタッフ、事業の企画立案を行うプロデューサーの配置など、専門的集団としての組織体制の構築を進めています。

「那覇文化芸術劇場なはーと」については、短期・中期・長期といった段階的な事業展開を目指し、そのノウハウや知見、人材育成など本計画の全般的な施策を展開します。

(3) 文化芸術財団設置に向けての検討

文化芸術施策の展開にあたっては、関係機関との綿密な連携と併せて、高い専門性、事業の創造性と継続性が求められます。そのため、専門性を備えた財団の設置に向けて検討を進めます。

2 文化芸術に関する人材や専門機関等との連携

那覇市内には、文化芸術に関する専門性をもつ人材に加えて、公益財団法人沖縄県文化振興会、大学、専門学校などの文化芸術に関わる専門機関が所在します。これらの人材や専門機関の特性を生かした連携を図り、協働による文化芸術施策を推進していきます。

(1) 専門性を持つ人材との連携

那覇市協働大使をはじめ、文化芸術に関する専門性を持つ人材との連携を図ります。

(2) 大学等との連携

市内には、専門性の高い芸術教育を担う沖縄県立芸術大学、地域密着型の大学経営を進めている沖縄大学の他、調理師、服飾デザイナー、メディアクリエイターといった文化芸術に関連する専門学校があります。

それぞれの特性を生かし、多様な領域を横断した幅広い施策の連携を図ることによって、新たな文化芸術活動の創出に取り組みます。



琉球芸能体験学習（泊小学校5年生の総合学習）
提供：沖縄県立芸術大学

(3) 公益財団法人沖縄県文化振興会との連携

県文化振興会の中でも、特に沖縄アーツカウンシル*の活動は地方におけるアーツカウンシルの先駆けであり、その支援のあり方が全国でも注目されています。

文化芸術分野の専門家であるプログラムオフィサー*が配置され、先駆的な支援活動が実施されており、本計画の施策展開を進めるにあたっても貴重なパートナーとして、市民の文化芸術活動に対する支援のあり方等について情報交換を行うなどの継続的な連携を図ります。

* アーツカウンシル

文化芸術に関する公的助成機関。専門家による審査や評価を行い、文化芸術団体や文化芸術活動に対して助成を行うほか、文化芸術に関する調査研究なども実施する。日本語では「芸術評議会」などと訳される。（文化庁委託事業・公益社団法人全国公立文化施設協会『アートマネジメントの基礎用語ハンドブック』より）

* プログラムオフィサー

文化芸術活動への助成に係る審査・評価、専門的な知識や調査研究に基づく助言等の支援を行う専門家のこと。

(4) 他の文化施設との連携

「那覇文化芸術劇場なは一と」においては、市内の文化施設と連携し、より那覇の魅力を高めるための取組を推進します。また、県内外の劇場、音楽堂等との連携による公演などを通して、相互の交流及び那覇の文化芸術の情報発信に取り組みます。

3 各種団体との交流による活動の創出

本計画では、文化芸術そのものの振興に加え、市民主体の文化芸術の発展・創造を通して、文化芸術施策を総合的かつ計画的に推進することを目指しています。

市内には、那覇市文化協会をはじめとした文化芸術団体、教育・福祉・健康等の社会的課題に取り組む市民活動団体が数多く活動しています。

文化芸術による対話などの交流を通して、当該団体の活動が創造的な取組を生み出す環境づくりを図ります。

(1) 那覇市文化協会等の文化団体

那覇市文化協会には28部会があり、約2,000人余(平成31年3月31日現在)の市民が活動する文化芸術団体です。また、市内には、古典音楽、琉球舞踊、空手、日本舞踊、洋舞、華道などの文化芸術に関わる団体が活動を行っています。

それぞれの団体における活動を基本としつつ、文化芸術に関わる様々な情報を通して、社会的課題解決に寄与する新たな活動の可能性が生まれる環境整備を図ります。

(2) 市民活動団体(まちづくりに関わる団体)

那覇市内では、自治会、小学校区まちづくり協議会、NPOや、地域経済や商店街の活性化に取り組む通商会、道路ボランティア等、市民団体や企業によるまちづくりに関わる団体が活動しています。

それぞれの団体の活動と文化芸術に関わる情報共有を通し、より一層活動自体に誇りを感じ、新たな市民活動に発展するよう環境整備を図ります。

(3) 教育・福祉等の活動団体(教育・福祉等に関わる団体)

「子どもの貧困」「社会的孤立」「高齢者福祉・認知症対策」等、喫緊の社会的課題に対し、子ども食堂、学習支援、交流サロン等、様々な団体が地域で活動しています。

今後、多様化した価値観の中で、それぞれの立場の人々が持つ社会的課題に対してアプローチすることが求められます。教育・福祉等に関わる様々な団体と連携し、課題の解決に向け、文化芸術活動を通じた事業展開や新たな手法を生みだし、実践する環境整備を図ります。

4 計画の進捗管理及び評価の手法

本計画の進捗管理を行うにあたり、個別の取組ごとのアクションプラン(具体的な行動計画)を作成します。毎年度、アクションプランの実施状況を把握し、中間年度に基本的施策の中間評価を行い、必要に応じて見直しを行います。また、計画期間の最終年度に計画全体の見直しを行います。

個別の取組(施策・事業等)の進捗管理については、PDCAサイクル(計画-実施-評価-改善検討)により行います。

【PDCAサイクル】

- ①Plan(計画) 施策や事業に関する目標などを定める
 - ②Do(実施) 上記①の方策などを実施する
 - ③Check(評価) 定期的に上記①の見込みなどの進捗状況について評価する
 - ④Action(改善検討) 上記③を踏まえ、必要に応じて①の見直しを行う
- *見直した後は、再度①、②、③、④を繰り返す。

より分かりやすい評価が行えるよう、国等の示す指標も参考にしながら、必要な基礎データの測定・収集、文化芸術関係者へのヒアリング等の定期的な実施など行い、進捗管理指標や成果目標の設定に取り組みます。